

7農総試第102-12号
令和8年3月4日

関係各位

愛知県農業総合試験場長

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和7年度病害虫発生予報第12号（3月）

担当 環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-41-9513
ファックス 0561-63-7820

令和7年度病害虫発生予報第12号（3月）

令和8年3月4日
愛知県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
コムギ	赤さび病	やや多い	県全域	前年の発生量は平年並 3月の気温は高い 3月の降水量はほぼ平年並	± + ±

・防除対策

[コムギ・赤さび病]

本病の発生に好適条件とされている日平均気温 12℃以上かつ降雨があった日が、2月以降に複数回ありました。ほ場をよく確認し、本病の発生が見られた場合は、止葉抽出期までに1回と開花期に1回、薬剤防除を実施しましょう。

・留意事項

コムギ黄斑病の発生が一部ほ場で確認されています。発生が見られた場合は、止葉抽出期までに1回と穂揃期～開花期に1回、薬剤防除を実施しましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ナシ	黒星病	やや少ない	県全域	前年秋期の発生量はやや少ない 3月の降水量はほぼ平年並	－ ±
モモ	せん孔細菌病	やや少ない	県全域	前年秋期の発生量は少ない 3月の降水量はほぼ平年並	－ ±
ブドウ	黒とう病	やや多い	県全域	前年の発生量はやや多い	＋

・防除対策

〔ブドウ・黒とう病〕

棚に残っている巻きひげや被害枝が第一次伝染源です。見つけ次第除去し、園外へ持ち出し適切に処分するとともに、デランフロアブルなどで休眠期防除しましょう。

・留意事項

春先の気温が高く推移すると、果樹の生育が早く進み、病害虫の発生が早くなる傾向にあります。ほ場内をよく観察し、病害虫の早期発見、早期防除に努めましょう。

カンキツそうか病について、令和7年10月下旬に実施した巡回調査において発生量がやや多いほ場がありました。本病の病斑が多く形成された葉が第一次伝染源となるので、樹勢等生育に影響が出ない範囲で見つけ次第枝ごと除去しましょう。

クビアカツヤカミキリの発生地域が拡大しています。暖かくなると、樹の中でクビアカツヤカミキリの幼虫が活動し始めます。モモ、ウメの幹にフラスが出ていないか注意して観察しましょう。防除対策等の詳細は令和7年7月2日発表のクビアカツヤカミキリ情報を参照してください。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キャベツ	コナガ	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
タマネギ	白色疫病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の降水量はほぼ平年並	± ±
	べと病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の降水量はほぼ平年並	± ±
トマト (施設)	疫病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	葉かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	コナジラミ類	やや多い	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は高い	± ＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ナス (施設)	うどんこ病	少ない	県全域	2月下旬の発生量は少ない	－
	灰色かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	すすかび病	やや少ない	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の日照時間はほぼ平年並	－ ±
	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は高い	± +
キュウリ (施設)	べと病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	ミナミキイロ アザミウマ	多い	県全域	2月下旬の発生量はやや多い 3月の気温は高い	+ +
イチゴ (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	平年並	県全域	2月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	平年並	県全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の気温は高い	－ +

・防除対策

〔トマト（施設）・コナジラミ類〕

10月1日発表の「コナジラミ類情報第2号」を参考に防除しましょう。コナジラミ類は、トマト黄化病の病原ウイルス（T o C V）を、タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（T Y L C V）を媒介します。気温の上昇に伴い増殖しやすくなりますので、黄色粘着板などを設置して発生状況に注意するとともに、発生量が多くなる前に防除しましょう。

〔ナス（施設）、キュウリ（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

気温の上昇に伴い増殖しやすくなります。施設開口部や吸気口の付近等発生しやすい場所をよく観察し、発生を確認したらアグリメックなどで速やかに防除しましょう。天敵や訪花昆虫を放飼している場合は、それらへの影響を考慮し農薬を選びましょう。

・留意事項

キャベツでは、春先に気温が高くなるとコナガの成育が早くなり、発生量が増加します。発生を確認したら速やかに防除しましょう。収穫終了後は、残さを速やかにすき込みましょう。

ナスでは、一部ほ場でハダニ類が発生しています。発生状況に注意するとともに、発生量が多くなる前に防除しましょう。

イチゴのハダニ類は、発生の多いほ場が散見されるので、気門封鎖型農薬等で防除しましょう。天敵や訪花昆虫を放飼している場合は、それらへの影響を考慮し農薬を選びましょう。イチゴのアザミウマ類は、例年、気温の上昇とともに発生量が増加します。施設開口部や吸気口の付近等発生しやすい場所をよく観察し、発生を確認したら速やかに防除しましょう。天敵を導入している、あるいは導入を予定している場合は、それらの影響日数に注意して農薬を選定しましょう。

花き

・留意事項

夏秋ギクの採穂の時期になります。ウイルス病などの病害が発生していない親株から穂を採りましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.html>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台2月26日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです。また、向こう1か月の降水量はほぼ平年並の見込みですが、これまでの少雨の状態を解消するには至らない可能性があります。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕	低い：20%	平年並：30%	高い：50%
〔降水量〕	少ない：40%	平年並：30%	多い：30%
〔日照時間〕	少ない：30%	平年並：30%	多い：40%